

鶴岡市 地域まちづくり未来事業計画の推進

| 事業名 | 事業費 | | | | 令和4年度 事業内容 |
|-----------------|-------------|-------------|-----------|-------------|---|
| | H31・R1 | R2 | R3 | R4 | |
| 地域振興懇談会運営事業 | 135万7千円 | 135万円 | 91万3千円 | 135万7千円 | ・地域振興懇談会を開催し、各地域の課題解決策や地域の活性化策について協議を進める。 |
| 地域まちづくり未来事業（鶴岡） | 3,022万6千円 | 3,180万7千円 | 3,016万3千円 | 3,016万1千円 | 鶴岡地域の広域コミュニティ組織が、未来に向けて取り組むまちづくり事業を支援し、住みよい、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進する。 |
| 地域まちづくり未来事業（藤島） | 6,098万7千円 | 1,550万6千円 | 2,250万3千円 | 2,301万1千円 | 1. 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現 5,806千円 2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進 12,594千円 3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築 4,611千円 |
| 地域まちづくり未来事業（羽黒） | 5,139万9千円 | 1,787万9千円 | 4,415万3千円 | 1,667万8千円 | 1. 人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進 16,106千円 2. 地域の特色を生かし価値を高める農業の推進 272千円 3. 活力あふれる地域づくりを担う地域コミュニティの推進 300千円 |
| 地域まちづくり未来事業（櫛引） | 2,191万4千円 | 1,291万9千円 | 1,512万8千円 | 1,812万5千円 | 1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり 3,681千円 2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進 274千円 3. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進 5,325千円 4. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進 8,845千円 |
| 地域まちづくり未来事業（朝日） | 5,689万9千円 | 2,123万5千円 | 2,553万2千円 | 2,190万6千円 | 1. 中山間地における定住環境の支援 14,348千円 2. 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興 3, 3. 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興 4,028千円 |
| 地域まちづくり未来事業（温海） | 4,095万1千円 | 3,005万2千円 | 2,129万8千円 | 3,153万7千円 | 1. あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出 4,380千円 2. 日浴道延伸を生かした鼠ヶ関周辺地域の活性化 500千円 3. 自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大 15,368千円 4. 農林水産資源のブランド化 5,622千円 5. 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 5,667千円 |
| 合計 | 2億6,373万3千円 | 1億3,074万8千円 | 1億5,969万円 | 1億4,232万7千円 | |

藤島民報

2022年 2月27日

第1338号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい
(月200円程度)
2月 29人 16,443円
1月 37人 44,733円

藤沢周平を読む 25

鈴木重雄（八色木）

橋を渡ったところで、立ち止まって、川上の方を見た。川岸をぶらぶらと歩いている女がいた。情けないことだが、安蔵は30になってからも、女と顔をあわせるとうろくに口もきけない男である。それだから嫁の来てもないのだ、と親戚の兵助は言うが、安蔵に言わせれば、それは違うのだ。

しかし、仲間が次々と嫁をもらい、子どもも生まれて、ひとり取り残されたと感じたころから、安蔵の気持ちは臆病になったのである。早く嫁をもらって、人なみに身を固めたいという気持ちは、母親に言われるまでもなく判っているのだが、安蔵はどうしようもない。

その安蔵がふと足をとめて女を待ちうける気になったのは、川岸をゆっくり近づいてくる女が、とつとつに安蔵に近づいたはずなのに、べつに安蔵を警戒して足をゆるめる様子もなく、そのまま近寄って来たからである。

「おてつじゃないか」安蔵は近づいて来た女を見て、驚いてそう言った。おてつは安蔵を見るととつとつと笑った。「病気だと聞いたども、そうやって一人で歩いたりして、だいじょうぶか」

安蔵は、いくらか気味悪く思いながら、そう言った。おてつに狐がつかいたとか、その狐をおとすために、この

間は他の村から山伏が4人もきて、一晚祈禱したそうだと、安蔵は母親から聞いている。だが安蔵は、母親の言うことを何となく信用できない気持ちで聞き流していた。夜中にぼつたり会って見ると、さすがにいい気持ちはしなかった。

「おらは病気でも何でもねえなだども」おてつは安蔵の前に立って言った。「家の人がおらさ狐ついたなんて言うもんださげ、山伏どが来たりにして、ほんとにやだくなつた」

「ふうん、そうか」安蔵はじろじろとおてつを見た。べつに変わったところはない。狐憑きといえば、顔まで狐のように変わるに違いないと思つたが、その様子もなかった。安蔵はいくらか安心した。

おてつは器量よしとは言うほどでもないが、10人並みの顔だちをしている娘で、年は18のはずである。安心すると同時に、安蔵の胸には若い頃はこの娘を嫁にもらいたかと思つたものだった。

「こげだ遅くまで田んぼ？」とおてつが聞いた。「うん、水が心配ださげ見さ行ってきた」

「ほんとに安蔵さんは、働き者ださげ」えっへ、へと安蔵は笑って、頭をかいた。

「自立分散型」まちづくりを推進

皆川市長は、地域まちづくり未来事業で、それぞれの地域の個性と自主性を生かす「自立分散型」のまちづくりを推進しています。

旧町村に対する地域振興予算は、2400万円から平成30年度、一気に2億円台になり、地域庁舎で自由にできる小規模修繕予算も令和3年度、各庁舎1000万円に拡充され、修繕が素早くできるようになりました。

4年度では、藤島・

■櫛引・田代地区に「住民混乗」スクールバス

新年度から、櫛引地域の田代地区の小学生は、通年でスクールバス通学ができます。

市議会3月定例会で、旧櫛引町の「住民混乗」スクールバスの運行経路に、田代を加える条例改正が提案されます。

田代地区の通学距離は3・2キロで、スクールバス運行基準のおおむね4キロ、冬期2キロに、夏分は満たないため、地区で独自に送迎を実施し、夏分の住民負担が50万円にもなっていました。

令和元年12月議会一般質問で、共産党の山田守議員が通学対策を求め、加藤鉦一議員も提案してきました。

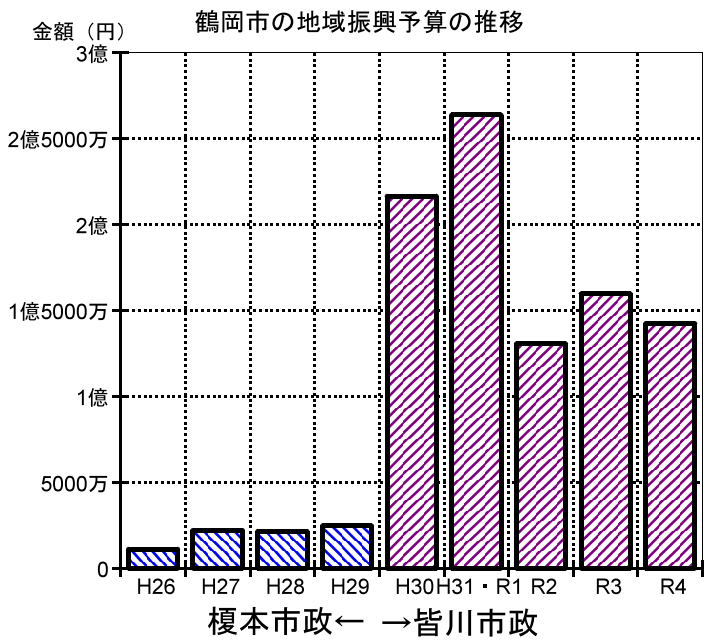
住民混乗バスのため、使用料がありますが、地元住民の長年の要求が実現されます。

櫛引の日帰り温泉施設のいっそうの活性化にも取り組みます。

朝日のかたくり温泉「ぼんぼ」は、廃止が

予定され、当該施設で行われていた介護予防や健康増進活動の代替市営バス路線の経路変更を検討するとしています。

地域の衰退を加速させないために、存続も含め再検討すべきです。



ひと 日下部勇一 (庄内町榎島) 波瀾(乱)万丈の人生

■二丁前の若勢

『ものがたり余目誌 下巻』に、遠藤祝さんの戦後の「若勢奉公体験記」があることを、勇一から知らされた。1947年(昭和22)7月19歳から1966年35歳まで16年間。戦後で食糧も自由にならない時で、昆布や黍の粉などが主食で配給された時代である。非農家なので、コンクリート屋で働いていた。

その頃、一緒に働いていたAさんから「若勢にいかねが、腹一杯飯は食われるし、この

節、若勢ほどよいものあるばや」と誘われた。廻館の菅原豊作さんの家で最初の若勢奉公をすることになった。

余目町農会(現農協)が、大正4年(1915)に決めた農作業一人1日の基準がある。

いわばノルマで、達成することを「ワッパカ」(井通語)と言ったが、すべて「ワッパカ」できれば一人前の若勢となる。

1, 馬耕一番起こしは2反歩・返しは3反歩・4番畔分けは5反歩。

2, 馬代掻きは5反歩

3, 田植は1反歩(正條繩植)

4, 除草は1反歩(雁爪打ちも同じ・4番まで)

5, 稲刈り・稲掛けは100束、畔掛110束

6, 藁細工は、大繩12把(1把30尋)、中繩13把、肥俵編3俵・俵編400尋・俵編12俵・鞆俵編13俵・草履12足・草鞋12足(若干省略)

熟達するコツがある。これを覚えるまでの数



薬物で汚しては

北京五輪は20日に終わった。しかしあれは、良く聞くところの心・技・体・という事を改めて認識させられた出来事でしたな。

というのは、フィギュアの彼女の一件ですヨ。天才的な技術と演技で、誰も出したことのない点数が出ていたものが、薬物の疑惑が出た後のあの転び方だ。しかも何度もそのようなだったから、心の動揺は、集中力が切れると

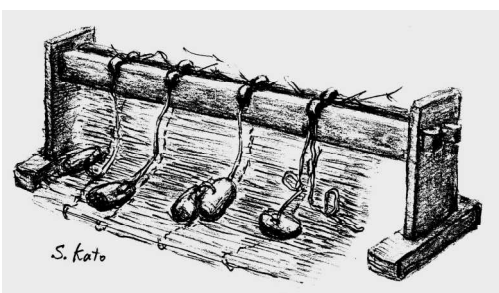
言う事で、あんなにもなるんだという事を見せてもらったんだ。

▲16歳未満だからと処分をウヤムヤにして出場させた結果は、それでも4位だったのは驚きだが、惨めに見えるたぜ。こんな事になったのは、彼女を育ててきたスタッフ・つまり大人の責任ですよ。

▲検体は12月に取った

年は、厳しい仕事であった。

ただ稲刈など朝暗いうちから始め、昼前にはワッパカにし、午後には着物に着換えて、遊びに出る若勢もいた。



と言うが、発表は何故演技が終わって第1位になってからだったのかは明らかにされていない。しかし、言い訳が面白いではないか。

▲つまり、薬を飲んでいるお爺ちゃんのコップを使ったから反応が出たんだと。正に、浅知恵としか思えない言い訳だったぜ。コップを洗わないで直ぐに使うか・と誰もがおもおう。しかも、薬物は錠剤だと言っただぜ。加えて、別の2種類の薬の反応が出たと言っただぜ。改めてどんな言い訳をするんだらうかネ。

▲医学的には、最高の効果が出るであろう薬の組み合わせだとテレビに出ていたな。つまりコップの問題じゃなく、研究されつくされたものだ・となるぜ。

▲薬物使用で国名での出場が出来ない団体。看板を替えても中身は同じって事か。彼女は どうなる? (石川)